

これが商品開発の 小誌記者による 独断予想!! ヒットのヒントだ!?



消費税増税も、いよいよカウントダウンに入った。

しかし、今、本当に注目しているのは増税後の反動ではないだろうか。

多くの企業が反動の対策として取り組みたい課題に『新商品の開発』を挙げている。(小誌『ルームファニシング』2014.1/1.6 合併号「家具・インテリア業界各社が予想する業界展望」をご参照ください)

そこで小誌記者がさまざまなトレンドを独自にピックアップ! 商品開発のご参考に!

流行の色使いを取り入れて勝機を得るべし!

今年のトレンドカラーは「Radiant Orchid」だ!

色見本で知られるアメリカのパントン社が2014年の流行色を「Radiant Orchid(ラディアント オーキッド)」に決めた。ピンクとパープルを調和させた同色は、喜びや愛情を高め、健康を促進するカラーとして位置づけられている。

Radiant Orchid(ラディアント オーキッド)は色相環の中でも、目を引き想像力をかきたてる色。「同色を使用することでクリエイティブやオリジナリティを促すだろう」とパントン社のエグゼクティ

ブ・ディレクター。

すでにファッションブランドである「JUICY COUTURE(ジュージークチュール)」「YOANA BARASCHI(ヨアナバラシー)」が2014年春コレクションに採用している。

一方、一般社団法人日本流行色協会 JAFCA も2014年春夏 JAFCA カラートレンド情報を発表した。それによると、レディスウェアのカラーテーマは『Quest(探究・探索)』、メンズウェアは『Light in

August (8月の光)』そしてプロダクト&インテリアは『咲きにほふ』。

「にほふ」には“芳香がする”という意味とともに“美しい色彩に輝く”と意味がある。今回の『咲きにほふ』というテーマには「生きる喜び」「季節ごとに咲きにほふ花のように、日常の物語を描き出して欲しい」という願いが込められ



ているとか。

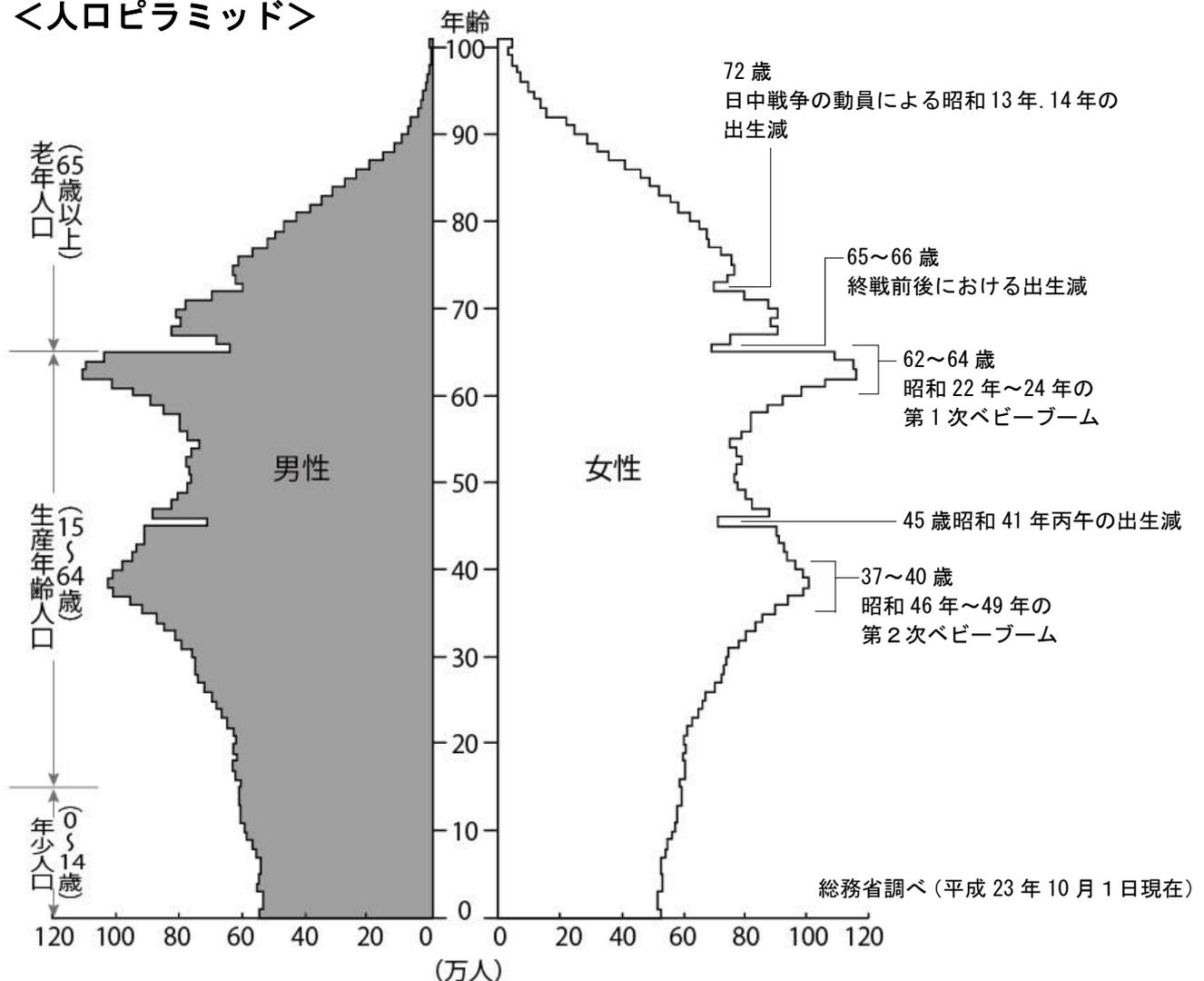
またスマホの普及により、今まで以上に世界や人と簡単に、自由につながる事が可能になったことにより逆に地域の文化や祭り、地域特有の料理や食材への関心が高まっている。無形文化財に指定された和食のように、日本特有の文化を発信していくことも一つの方向としてあるかもしれない。



アクティブな団塊世代が住宅市場を牽引

今年は住み替え、リフォーム市場が活況?!

<人口ピラミッド>



■高齢者のいる世帯は4割

平成23年のデータによると、65歳以上の高齢者のいる世帯数は1,942万世帯。全世帯(4,668万世帯)の約4割が65歳以上の高齢者で占めていることがわかる。

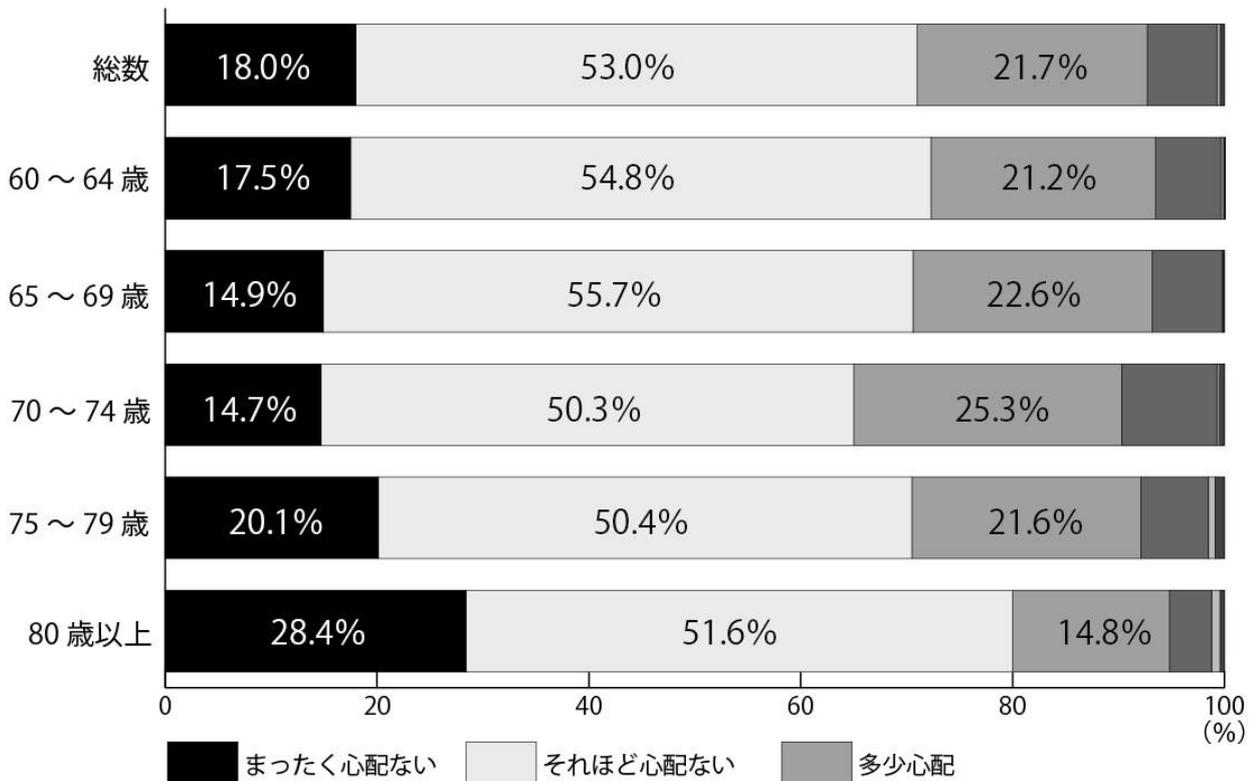
内閣府の資料によると、三世代世帯は減少傾向にあり、親と未婚の子のみの世帯、夫婦のみの世帯は増加傾向にあるという。昭和55年まで世代構成でもっとも大きな割合を占めていたのは三世代同居だったが、以降、は減少に一転。平成23年になると約3割が夫婦のみの世帯となり、単独世帯とあわせると半数を超える状況になる。夫婦のみ・単独世帯の増加は今後も続くと思われる。

■暮らし向きに心配のない高齢者が約7割

60歳以上の高齢者の暮らし向きについてみると、全体の約7割が『心配ない』(「まったく心配ない」「それほど心配ない」の合計)と感じている。年齢階級別に見ると80歳以上がもっとも『心配ない』と感じている。

高齢者世帯の年間平均所得は平成22年で307.2万円となっており、全世帯平均の538.0万円の半分強にしかすぎないが、世帯人員一人あたりでみると、高齢者世帯の平均世帯人員が少ないことから、197.4万円となり全世帯平均の200.4万円と大きな差がみられなくなる。つまり、金銭的に余裕のある高齢者が、これからどんどん増えていくことになる。

<高齢者(60歳以上の男女)の暮らし向き>

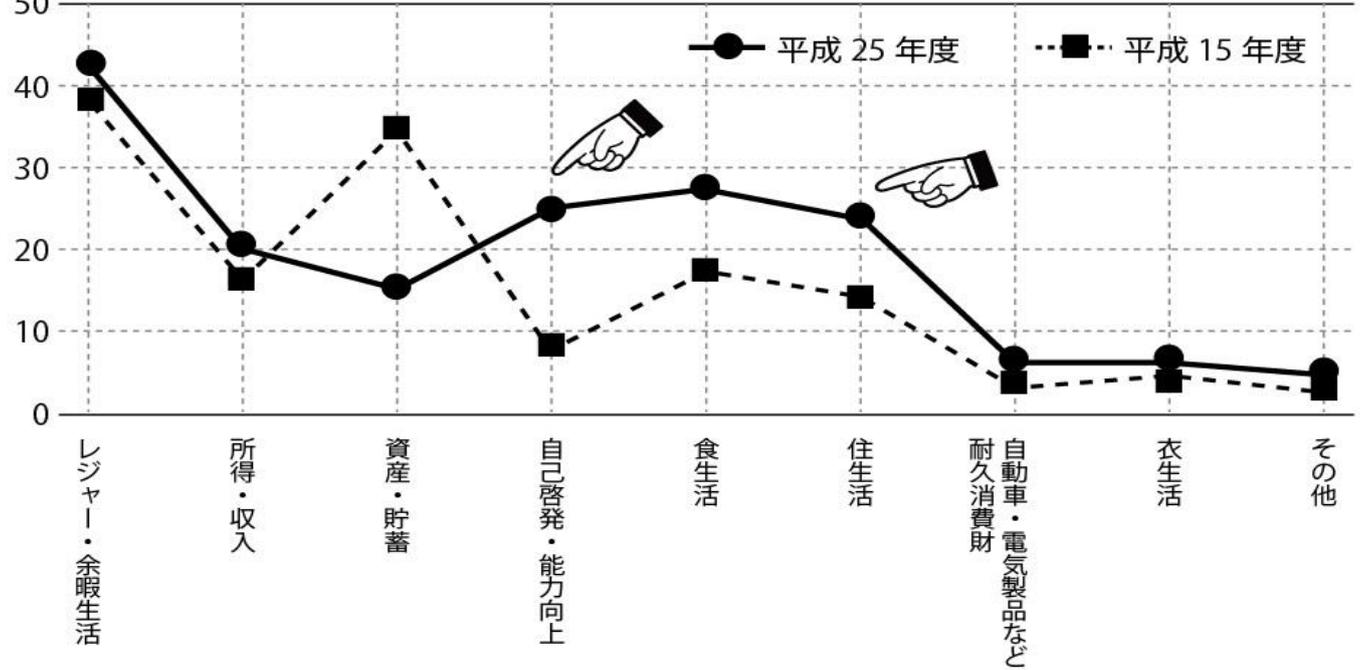


内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査(平成23年)」より

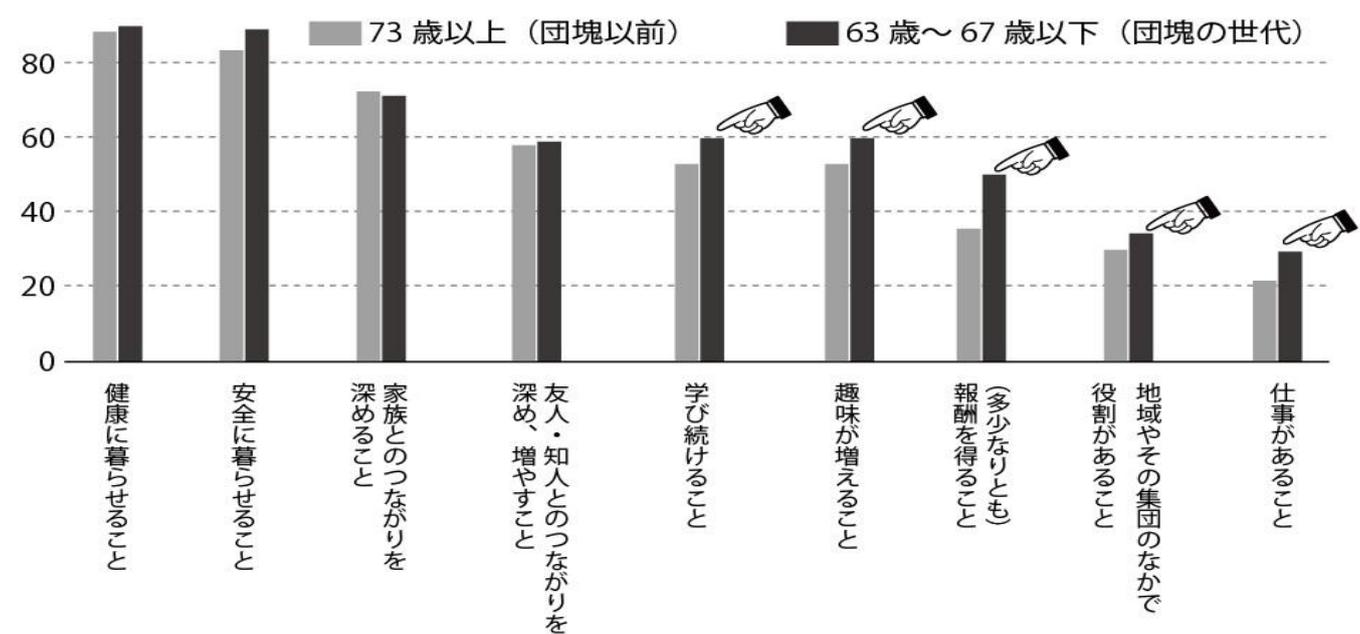
区分	平均所得金額	
	一世帯あたり	世帯人員一人あたり(平均世帯人員)
高齢者世帯	総所得	307.2万円
	・稼働所得	53.5万円(17.4%)
	・公的年金・恩給	207.4万円(67.5%)
	・財産所得	27.2万円(8.9%)
	・年金以外の社会保障給付金	2.4万円(0.8%)
	・仕送り・その他の所得	16.7万円(5.4%)
全世帯	総所得	538.0万円
		197.4万円(1.56人)
		200.4万円(2.68人)

厚生労働省「国民生活基礎調査(平成23年)」より

＜今後の生活で力点をおきたい項目（平成15年と平成25年の60代を比較）＞
内閣府「国民生活に関する世論調査（平成23年）」より



＜住み替え・リフォームする際にどんなことを実現したいか＞



■アクティブな団塊世代

時間にもお金にも余裕のある高齢者はこれから大きな市場として注目されるようになるだろう。しかし注意しなければならないのは、その特性。70代といわゆる団塊の世代では考え方や行動、嗜好に大きな違いがある。

現代の60代は定年を『隠居（リタイヤ）』ではなく「新しい自分の居場所を創り、自分の能力を活用し、自分らしく生きる」ことと考えている。実際「健康なうちに自らの意思で住み替えやリフォームを行

い、地域やコミュニティに新しい居場所を創る」動きが活発化している。一口に“高齢者”とひとくくりに考えていると失敗する可能性も…。

■2014年はアクティブ傾向？

景気が上向いたというのが地方にはまだ実感はない。しかしながら「健康」「希望」を感じさせるカラーがトレンドに選ばれるなど前向きな姿勢になっていることは確か。この機運を掴むことが成功の鍵かもしれない。

